

北海道医歌人会詠草

塩と砂糖

一日に塩分摂取50kg^{キログラム}塩分とり過ぎ土俵の土は
見下ろせば祭に向かう群衆は砂糖に群がる蟻のごとし
土俵よりちよつとはみ出してるだけで塩・ゴミ掃き出しくれる徳俵
解体の土俵の塩の再利用産廃とせず海に戻せぬか
日々を短歌に詠みて投稿す甘き評価に継続したり

滝川 村田 英俊

ヤブカンゾウ

日照と炎暑の予報 そよ風がこの朝咲きしヤブカンゾウに
郷里の山河と学び舎思ひ描く 同年会の知らせを受けて
中ぞらを渡りゆく月 秋冷えのラジオ体操ふり仰ぐとき
町内の緑化運動 花樹に寄せ植えされしペチュニアの花
塵取りへ紛れて入りし蟻の子が 逃るるを待ち掃く手を休む

札幌 浜島 泉

終活期

何気なく受け取った荷が重過ぎてもろくも腰椎圧迫骨折
脊が縮み手の届かない棚のもの腰も曲がつてふらつく足どり
これまでは薬と手術でしのいだが長生きのツケ遂に来たのか
我が家にはブラックホールがあるらしい失せもの多い後期高齢
独り身を楽しんでいた隣人が免許返上・施設へ移る

釧路 児玉 昌彦

選挙(一)

金まみれ 襖も謝罪も形だけ 身に染む体質何も変わらず
頂点に雌伏十年遂に立つ 豹変するは為政者の常
総裁選 裏に如何なる取引ある? 合従連衡 庶民蚊帳の外
美酒に酔ひ かつて語りし総理あり 「なつてしまえばこつちのもの!」と
彼の国は罵詈雑言が乱れ飛ぶ まだ節度あり日本の選挙

北広島 古屋雅三知

昭和百年

祈ごと膝をつきつつ田の草を 取る母の夢 昭和百年
「命」とう字の部首は「口」 生きるとは 先ず新米のむすび食むこと
守り来し里山の幸土瓶蒸し 五臓六腑に 味染み渡る
木枯らしの埤頭に積まれし 原木は 森に焦がれて香りを放つ
銀漢の色濃き流れ 海に落つ 船から仰ぐ往診帰り

函館 水関 清

浦嶋子 四

吾妹子よな開きそとはつれも無し開けがての玉匣など託せぬか
玉匣託し常世去るだに例なし還り給はむつゆ疑わず
空仰ぎ刀鎌の月に眉思ひ涙と流る過ぎ去りし幸
はるばるとなりゆく人ぞ広き背が追ふ甲斐も無くあはに消えゆく
ながらふもなんぞ甲斐なし本俗失われし世に生きる虚しも

士別 竹内 幹夫